

# 岩手県の日本酒7銘柄による新企画「ganshu」 第二弾は日本酒×短歌！

第165回芥川賞候補作家くどうれいんの短歌ラベルで発売

「ganshu」は、岩手の日本酒をあまり知らない人がこれから新しいファンになるきっかけを作るため、岩手県内ゆかりのクリエイターとコラボレーションする企画です。第二弾の今回は、岩手県出身の作家・歌人のくどうれいんさんとタッグを組み、ganshuのために書きおろした短歌をラベルデザインに組み込みました。飲食店ででの取り扱いのほか、店頭での購入も可能です。ぜひとも貴媒体でご紹介くださいますよう、ご検討のほどよろしくお祈りします。



※画像は現段階でのイメージです

岩手県青年醸友会の会員である、浜娘、岩手誉、七福神、酔仙、堀の井、南部美人、鷺の尾の7銘柄が「ganshu」として短歌とコラボレーション！雨をモチーフにした統一感のあるデザインと涼しげな水色の瓶で、若い世代や女性の方にも手に取りやすいデザインです。

各蔵が工夫を凝らして醸造する「ganshu」を比べて味わっていただくことで、岩手の日本酒の新たな魅力を日本酒ファンの皆様にご紹介いただける商品となっています。

## ganshuとは

「岩手の酒」という意味で岩酒を音読みしたもので、私たちの造る岩手の日本酒を世界にむけて発信していこうという気概を込めてアルファベットで表記しました。



## くどうれいんコメント

日ごろからよく飲む大好きな日本酒のラベルデザインに短歌を起用いただきうれしいです。岩手で感じるさまざまな雨の風景と、お酒を飲んだ時のうっとりとした高揚感を意識し、7銘柄すべての名前を詠みこんだ特別な短歌を作りました。

## プロフィール

作家・歌人。岩手県出身在住。初の中編小説『氷柱の声』（講談社）にて第165回芥川賞候補に。現在は講談社群像、小説新潮、河北新報、NHK出版、マガジンハウス社Hanako等連載多数。著書に『桃を煮るひと』ほか。



## 販売する日本酒の概要

- ・商品名：「ganshu（がんしゅ）」
- ・商品内容：各蔵1本の内容量720mlの日本酒を2~3蔵分セットでの販売（合計2本または3本）  
（4月は3本セット、5月6月は2本のセットでの販売）
- ・販売数量：1,000セット（納品は各蔵ごとに行いますが、セットでの販売にご協力お願いいたします）
- ・希望小売価格：4月分（720ml 3本）：6,000円（税別）、5月6月分（720ml 2本）：4,000円（税別）

## ラベルデザインについて

水色の瓶に、それぞれの雨をモチーフにしたモノクロのデザインが映えるすっきりとしたデザイン。瓶には首掛けの短冊があり、そこにくどうれいんさんの短歌が書かれています。

デザインは各銘柄ごとに異なります。

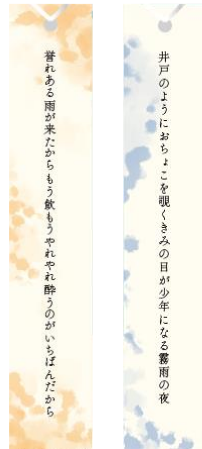
※短歌の短冊7種類をセットでお手元にとっておいていただくと、今後イベントにご参加いただく際に特典が付きます。詳しくは今後青年醸友会のInstagramでお知らせいたします。

酔ってする約束がすき 次の世できみが驚ならわたしは雨に  
浜の娘の酔ってあかるく話し出す大雨よりも泣いた日のこと  
など

短歌：くどうれいん

デザイン：盛岡市加賀野の活版印刷所「フウケイ」

印刷：吉田印刷



## 販売時期

2024年4月：岩手誉、七福神、鷺の尾

2024年5月：酔仙、堀の井

2024年6月：南部美人、浜娘

全3回 商品発売を各月第2金曜日に設定していますので、納品日は2日前水曜日頃を予定しています。

## 販売先

岩手県内の酒類を取り扱う酒販店様、いわて銀河プラザ様（東京都中央区）

## 詳細

岩手県青年醸友会会員の酒蔵が造る日本酒のうち、浜娘、岩手銘醸、菊の司、酔仙、堀の井、南部美人、鷺の尾の7銘柄の日本酒を、3回にわたり2、3蔵ずつ、それぞれ720ml詰の日本酒をセットで販売します。

### 岩手県の日本酒について

岩手県の日本酒は、2023年9月25日にGI岩手が指定されています。岩手県の原料米「結の香」で造った純米吟醸酒が国内外で高く評価されている他、酒造好適米として「吟ぎんが」「ぎんおとめ」、吟醸酒用酵母「ジョバンニの調べ」「ゆうこの想い」、オリジナル麹菌「黎明平泉」「紅椿」「白椿」といった県独自の素材を生かした日本酒造りに取り組んでいます。また岩手県工業技術センターのバックアップを受けて、蔵付きの乳酸菌を使った生酏系酒母への取り組みも行っています。

### 岩手県青年醸友会とは

岩手県青年醸友会（会長 及川順也（岩手銘醸株式会社））は岩手県酒造組合内の組織で、岩手県内の50歳以下の酒蔵で働く若手が集まっている。会員の多くが実際に酒造りを行っていて、岩手県の日本酒の品質向上に取り組むとともに、岩手の日本酒の魅力を伝えるべく活動する組織。毎年蔵を見学しての研修や、大学生に日本酒について伝える取り組みを行っている。岩手大学のサークルi-sakeとともに大学生が考える岩手の日本酒を造る取り組みを行っていて2023年度はi-sake 5年目の日本酒の製造を予定している。

青年醸友会のInstagram



### 【本件に関するお問い合わせ】

岩手県青年醸友会事務局（岩手県酒造組合内）担当：菅沼 019-623-6121